

本グループには RCA のステント留置困難症例に対し Anchoring technique を用いた症例が割り当てられた。

RCA のステント再狭窄に対し 33mm の Cypher ステントの留置を試みたが目的とする位置に deliver できず、手前に留置せざるを得なかった状況で、末梢に残存する病変をカバーするべく 2 個目のステントを遠位部に deliver する方法について検討した。

術前の患者側の要因として腎機能が問題になるとの意見が出された。

手技にいたるまでの strategy として、アプローチ、ガイディングカテーテルのサイズ、形状などが検討された。本症例では Trans femoral、8Fr、Hockey stick type であった。前二者については変更の必要はないと考えられ、ガイディングカテーテルの変更、ガイドワイヤーの変更、inner catheter を使用した deep seating などの可能性が検討された。また、短いステントを複数留置する選択が検討された。

Anchoring には通常側枝が用いられるが、本症例では適当な枝がなく、末梢本幹をバルーン拡張して deliver に成功した。この方法の適応・利点・欠点について検討がなされた。